

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 26 日 10:34AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～47,600 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～46,700 ドル  
(S&P500) 5000～6700

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,800～24,800  
(ナスダック総合) 18,800～22,800

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～154.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均



### 【週足 エリオット波動分析】

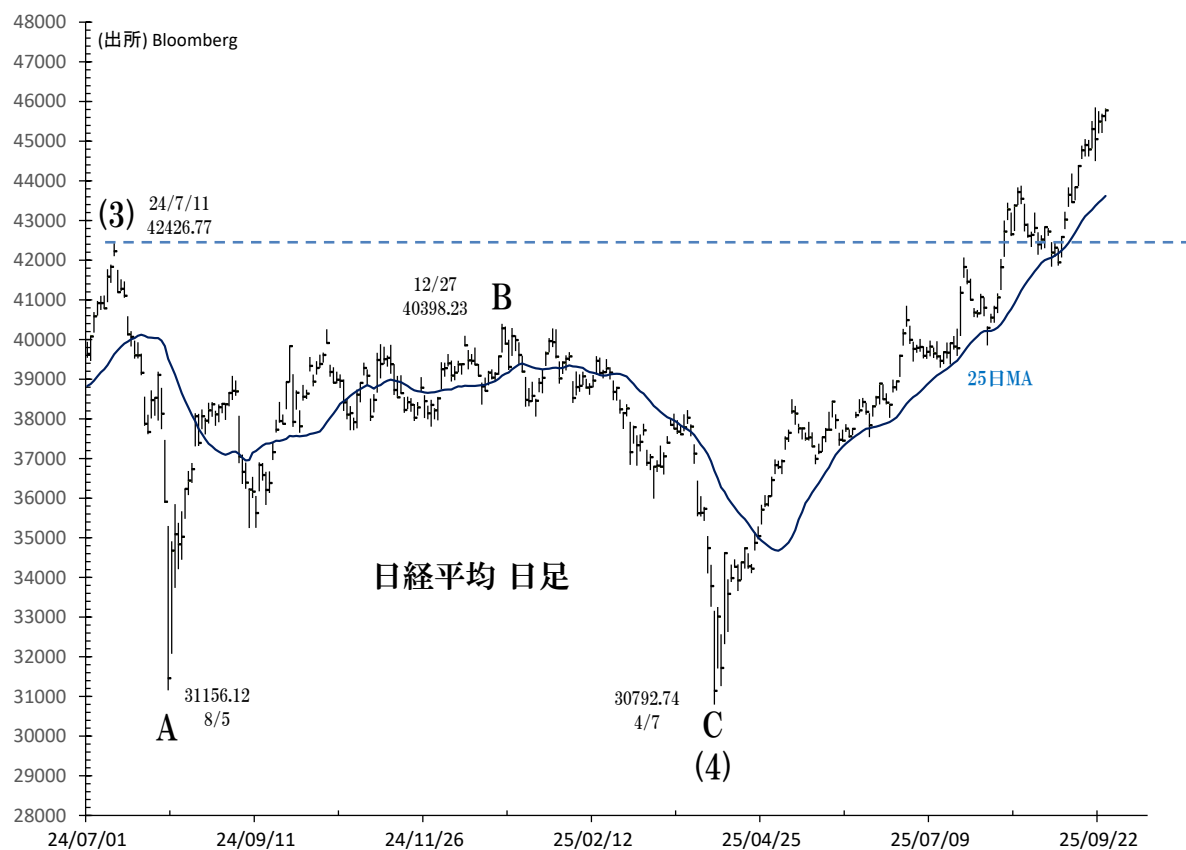
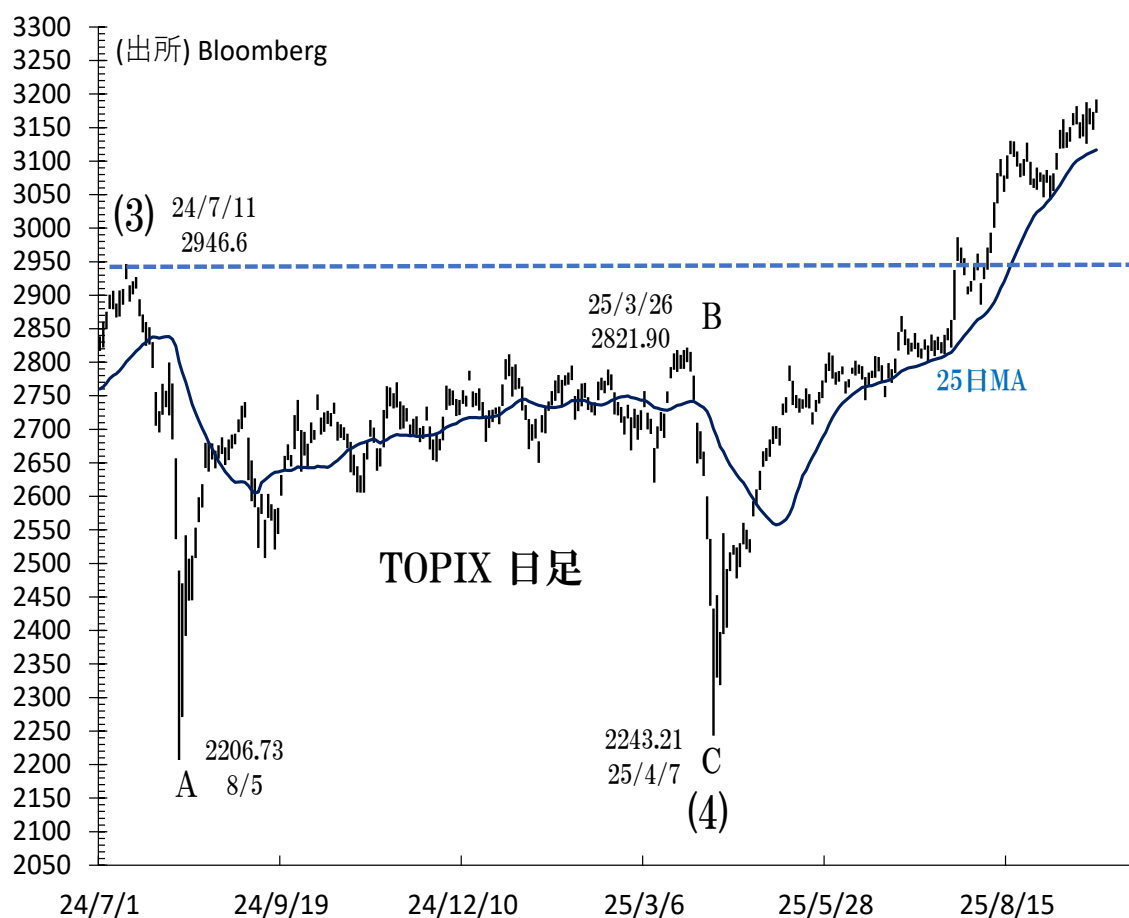
今年 4 月安値 (30,792.74 円) からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底 (16,358.19 円、20 年 3 月) からのプライマリー第③波は完成します。

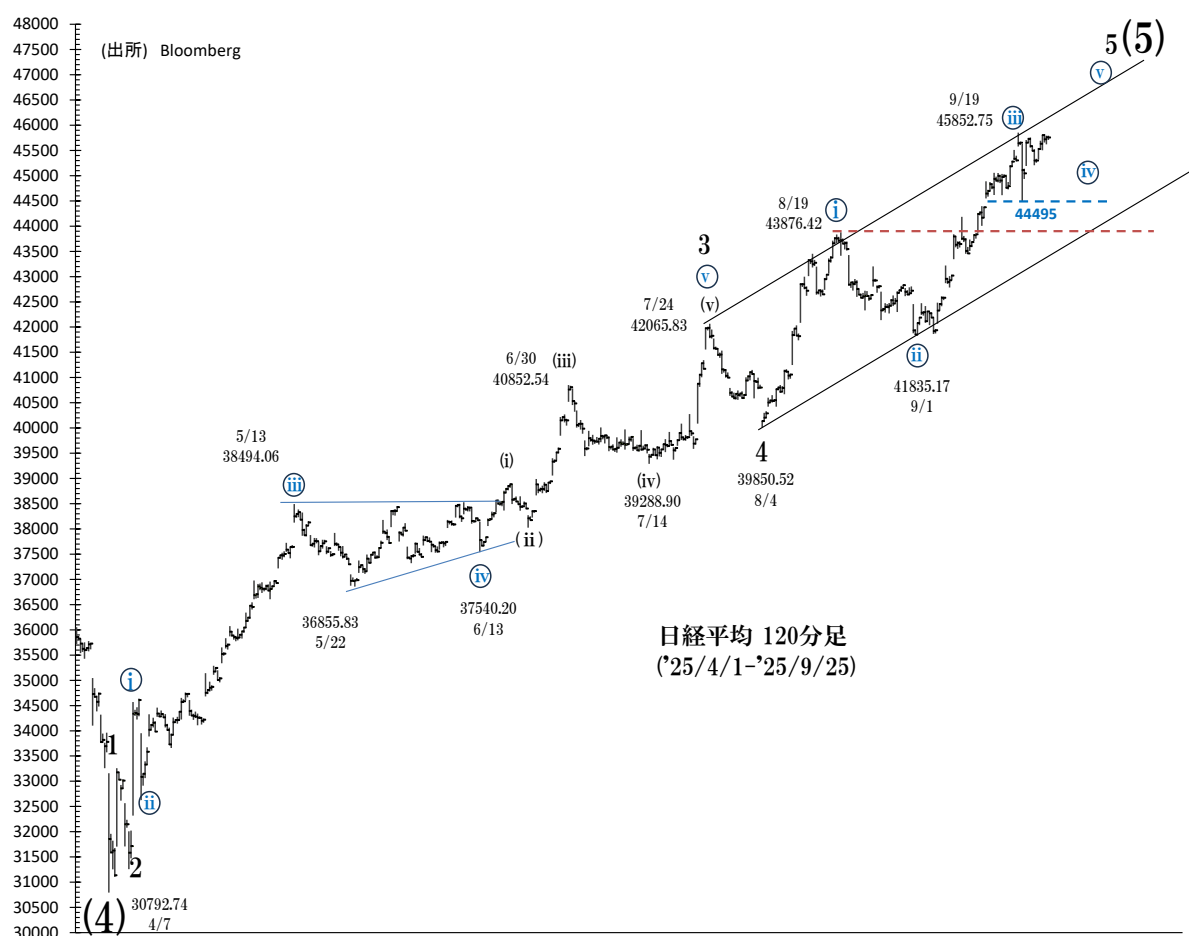
第(5)波目には、①企業業績や景気などファンダメンタルズは以前より弱め、②平均出来高は少ない、③中小型株が選好されやすい、④先行きへの極端な楽観論、などの特長があります。現在は①～③は揃っていますが、市場を楽観ムードが支配している、とまではいえません。

とはいえ、今月に入り予想 PER が上昇傾向を強めていることは、投資家の来期への期待感が高まっている表れであり、「懐疑の中で育つ強気相場」という局面は既に過ぎ去りました。

「9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円」という筆者の従来予想は(控えめにみても)達成されていますが、波動構成上からは強気相場はまだ続きそうです。

例年 9 月は株安になりやすいものの、**足元の「踏み上げ」的な相場付きは、10 月 4 日(自民党総裁選)頃にかけて継続する可能性があります。**





## 【日足・時間足 エリオット波動分析】

### [TOPIX]

既にフィボナッチ比率からの目標価格①[3164]を達成し—9月25日高値は3192です—一次の主たる目標価格②[3323]を目指す可能性があります。東証プライム時価総額は1082兆円(9/25)となり、初の1100兆円到達が視野に入ります。

### [日経平均]

39,850円(8/4安値)以来、マイナー級・第5波の上昇が展開中です。フィボナッチ比率などから得られる(マイナー級)第5波の目標価格は[48,568円][48,896円][48,964円][49,074円]などです。

41,835円(9/1安値)からの、第5波における、マイニュート級・マル iii 波の上昇は、45,852円(9/19高値)で終わったかもしれません。この高値は水準的に8月からのチャネルライン上限に達し、マル i 波とマル iii 波が等しく上がる水準[45,861円]にも近いものでした。

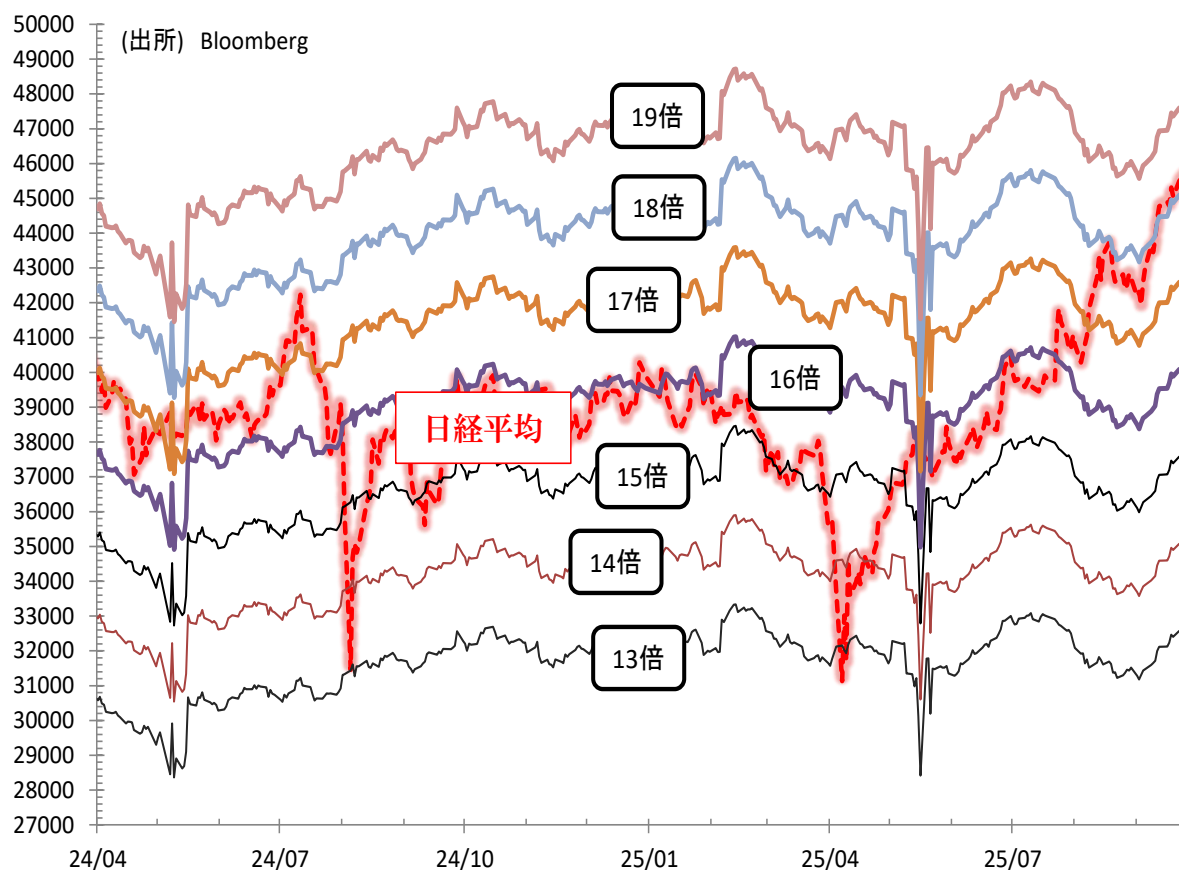
この見方が正しければ、足元はマル iv 波の調整と読み、それはトライアングルやフラットなど保ち合い型パターンとなるでしょう。基本的にマル iv 波は、マル i 波高値(43,876円)を下回ることはいはずです。

そしてマル iv 波を完成後に続くマル v 波により、コロナショック底からのラリーは終わるでしょう。

## [予想 PER 別の日経平均水準]

9月25日の日経平均予想 PER は 18.30 倍・予想 EPS は 2500 円。

9日連続(9/11～9/25)で PER18 倍台となりましたが、予想 EPS が 2500 を回復しており、18 倍台での割高感はやや薄れています。日本株相場が本格的なインフレ相場を迎えるなか、18 倍台が定着するかに引き続き注目です。なおアベノミクス相場がクライマックスを迎えた 2015 年 4 月の PER は 19.15 倍でした。試みに、EPS2500 円・PER19 倍でみたとき、日経平均の水準は 47,500 円ということになります。



## NY ダウ・S&amp;P500



## 【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

## (プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20%安となるでしょう。

## (オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも 4 月安値(36,611ドル)は維持されるでしょう。その後 1~2 年程度のもみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

9 月 23 日、一時 46,714ドルと新たな最高値へ上伸し前日比上げ幅は 330ドルを超えましたが、そこからは一転、終値は 46,292ドルとマイナスに沈みました。このような「スパイク・ハイ」は、NY ダウがピークアウトした可能性を示すものです。

44,948ドル(9/2 安値)を割ると弱気トリガー。調整局面入りが示唆されます。



### 【S&P500 日足 エリオット波動分析】

今回、波動カウントを微調整します。これまで「7 月からエンディング・ダイアゴナルによる上昇」としてきましたが、これを改めます。

新たなカウントによると、6212(8/1 安値)から第(v)波の上昇にあり、足元は(v)-iv 波の調整にあります。S&P500 は(v)-v 波によって、もう一度、最高値を更新しますが、それを以て強気相場は終わることになります。

6481(8/15 高値)を割ると弱気トリガー、大きな調整入りが示唆されます。

### 【S&P500 長期エリオット波動分析】

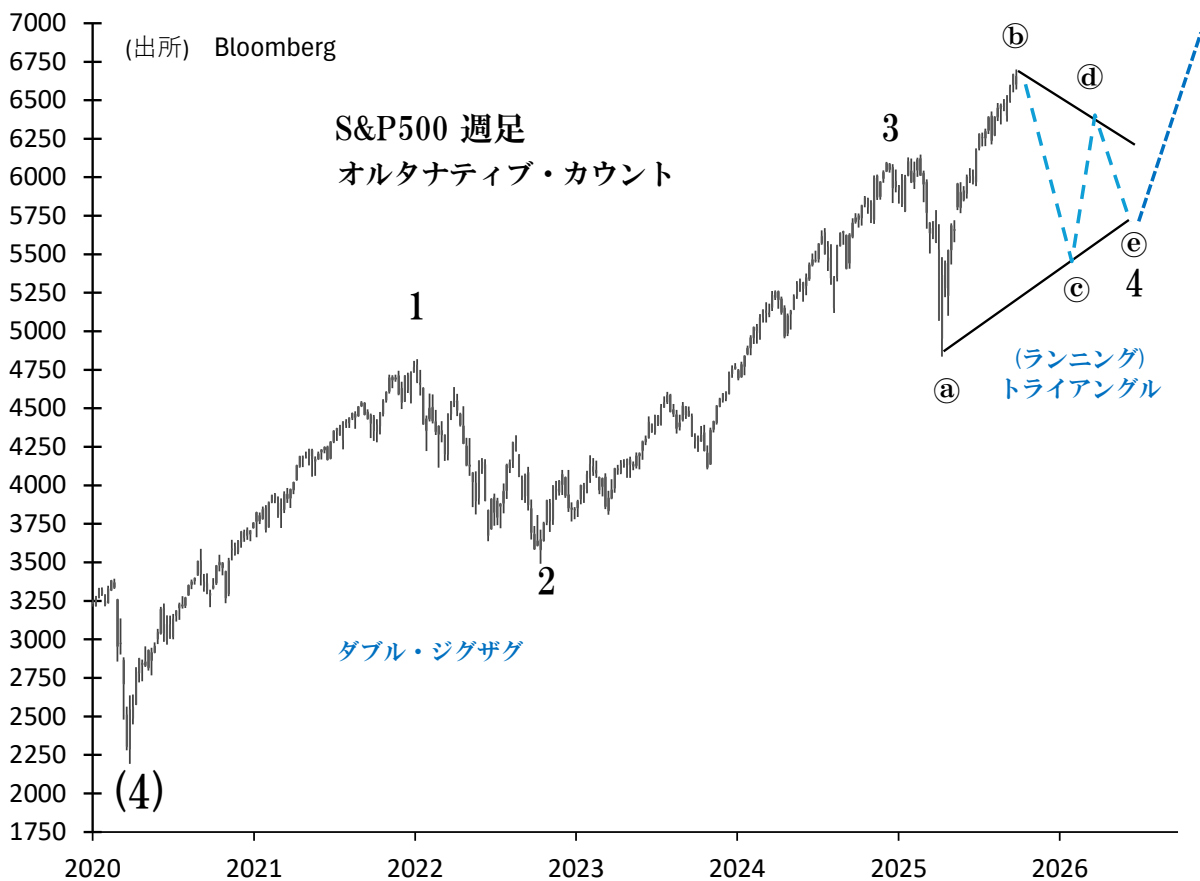
#### (プリファード・カウント)

4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第 5 波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

#### (オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

近々⑥波の下げがスタートし、それは②波(2 月～4 月)下げ幅に対し 62%～66%の大きさ(813～866 ポイント)になるでしょう。この⑥波により S&P500 は、5400 を下回る展開になりそうです。

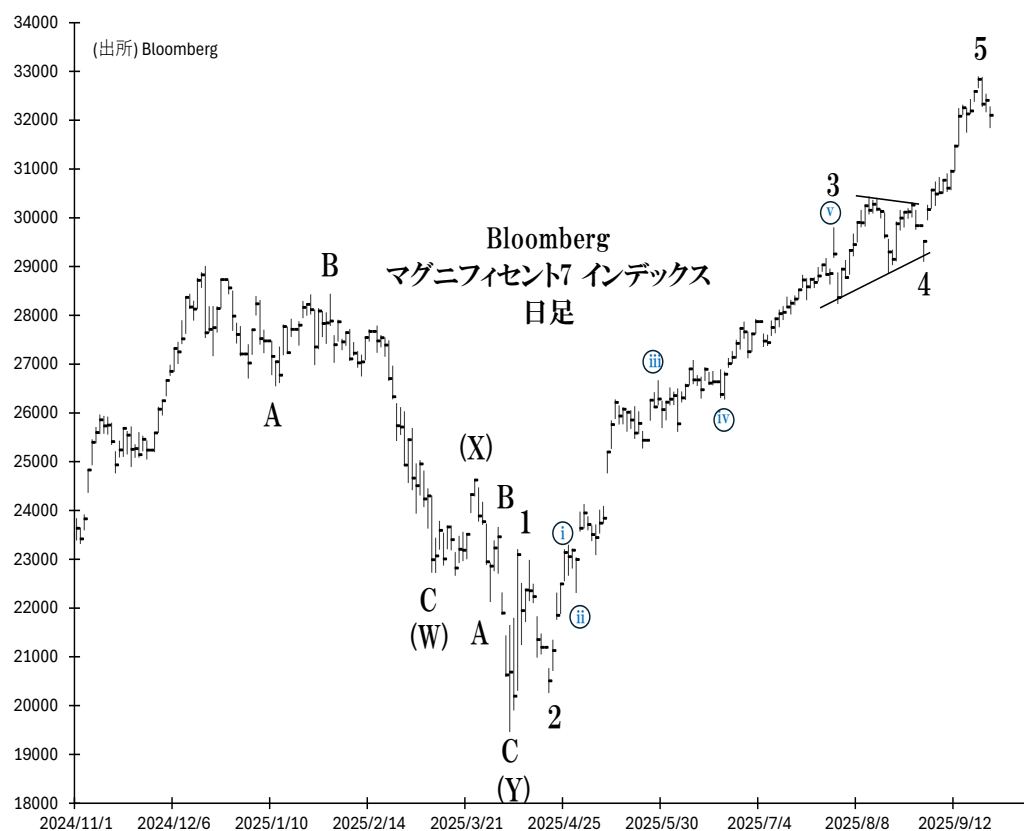




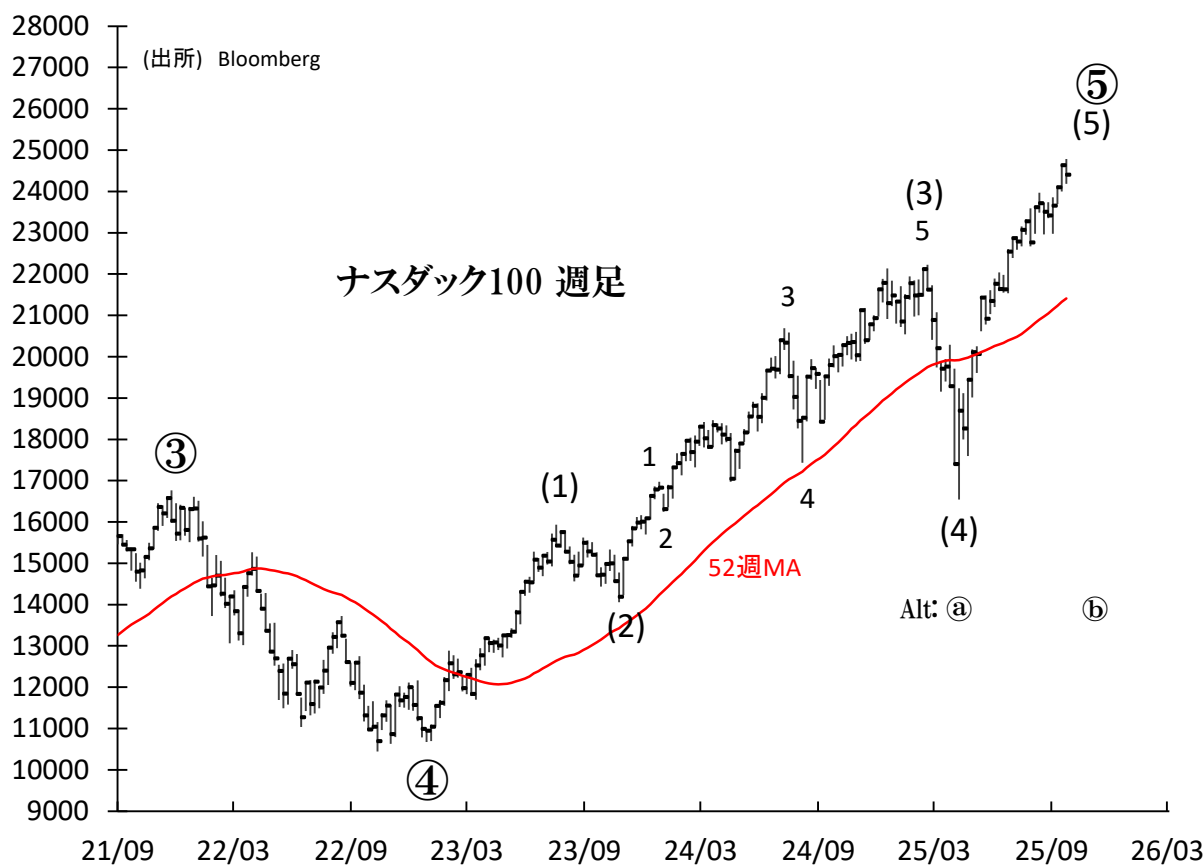
【ダウ輸送株平均】（直近で最高値更新の）ダウ工業株平均と「未確認」続く



【マグニフィセント7】4月から5波構成による上昇



# ナスダック



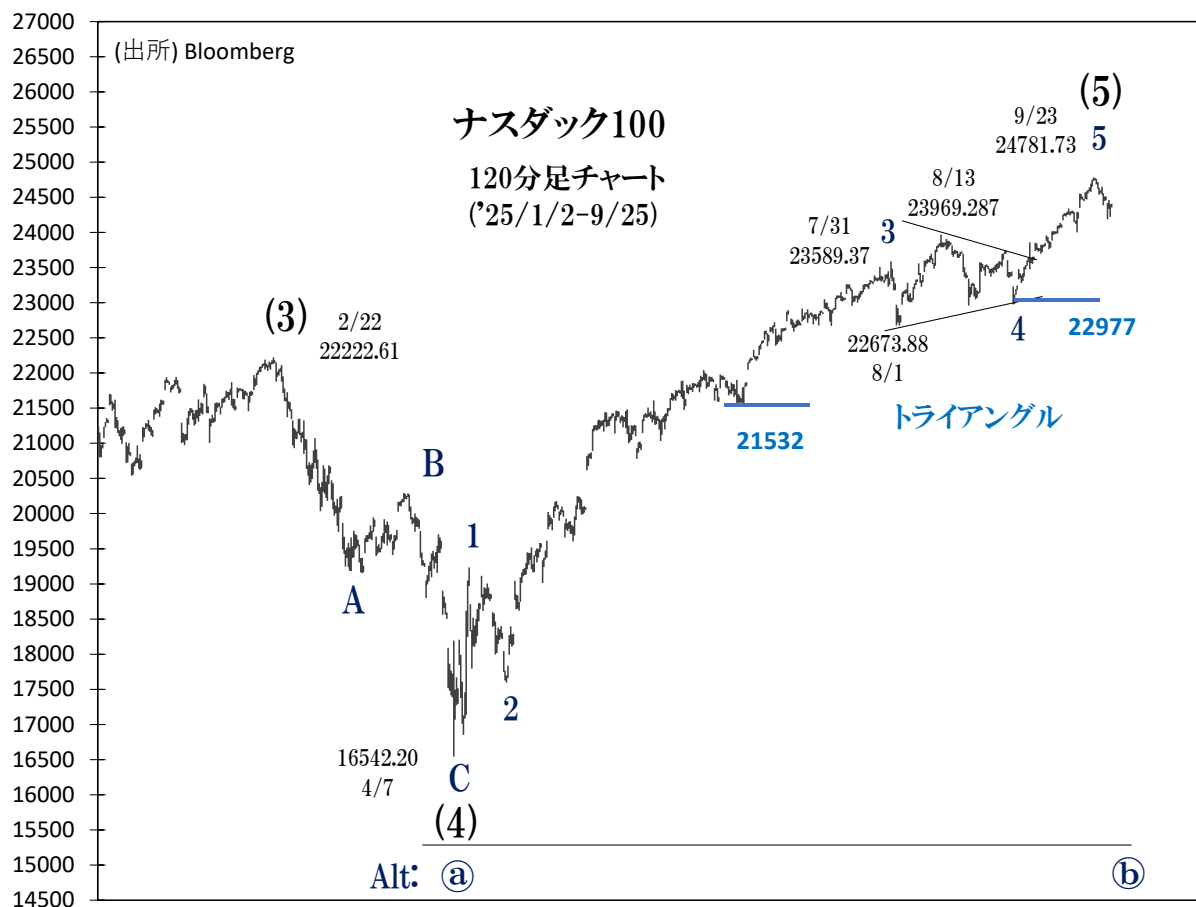
## 【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

### (プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。もう間もなく調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

### (オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中⑥波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず③波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも③波の下げ幅は②波のそれに対し 62%~66% となり、⑥波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



#### 【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波か、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

22,977(9/2 安値)からの上昇はマイナー急第 5 波に位置付けられます。

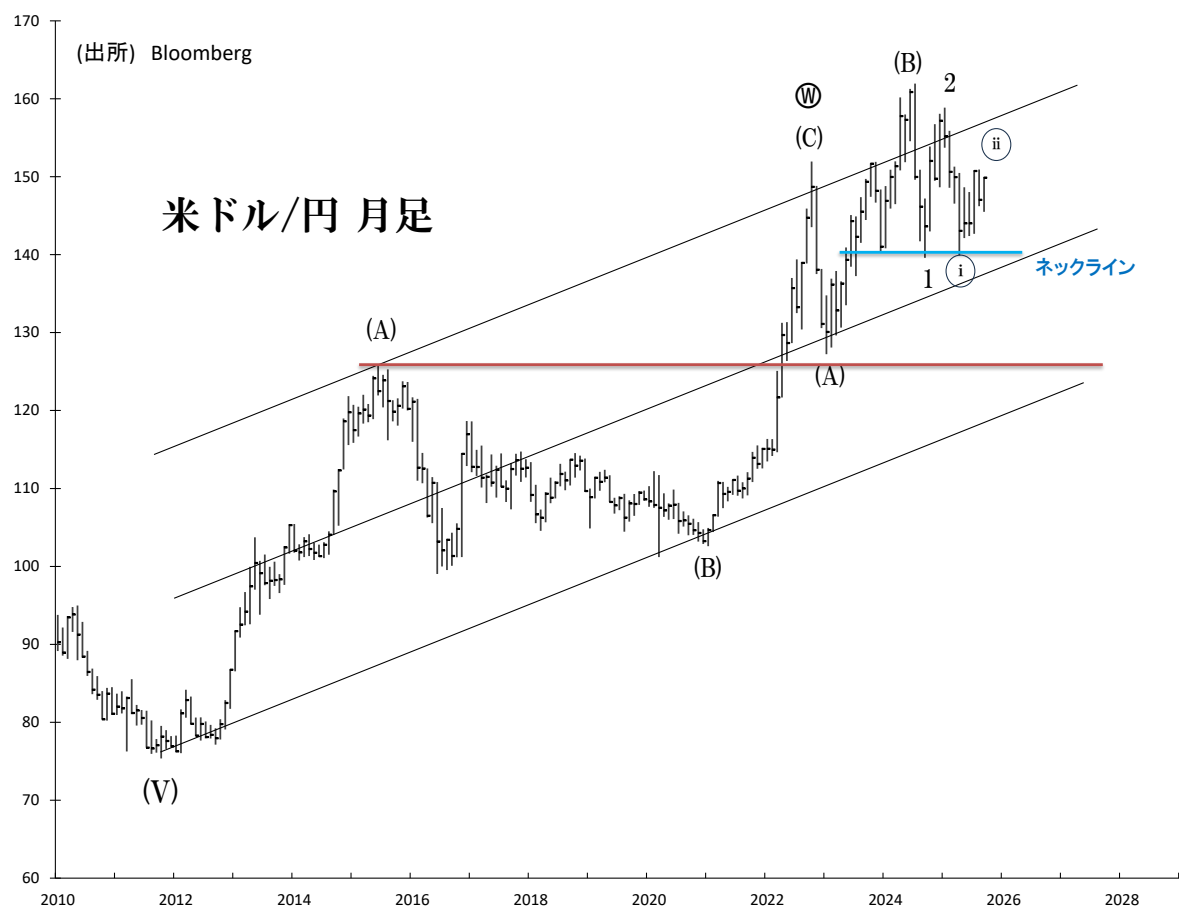
9 月 23 日には一時 24,781 まで上昇し最高値を更新しましたが、翌 23 日からは 3 日続落となりました。

さて当面見極めるべきは、第 5 波すべてが完成したのか否か、という点です。

第 5 波が継続しているのなら、目先の値は 24,000～23,500 付近でしょう(さらに下げる場合でも、22,977 は維持されるはずです)。

一方、22,977 を一時的にも下回ると、それは第 5 波が既に完成したことの最初のシグナルとなるでしょう。

# 米ドル/円

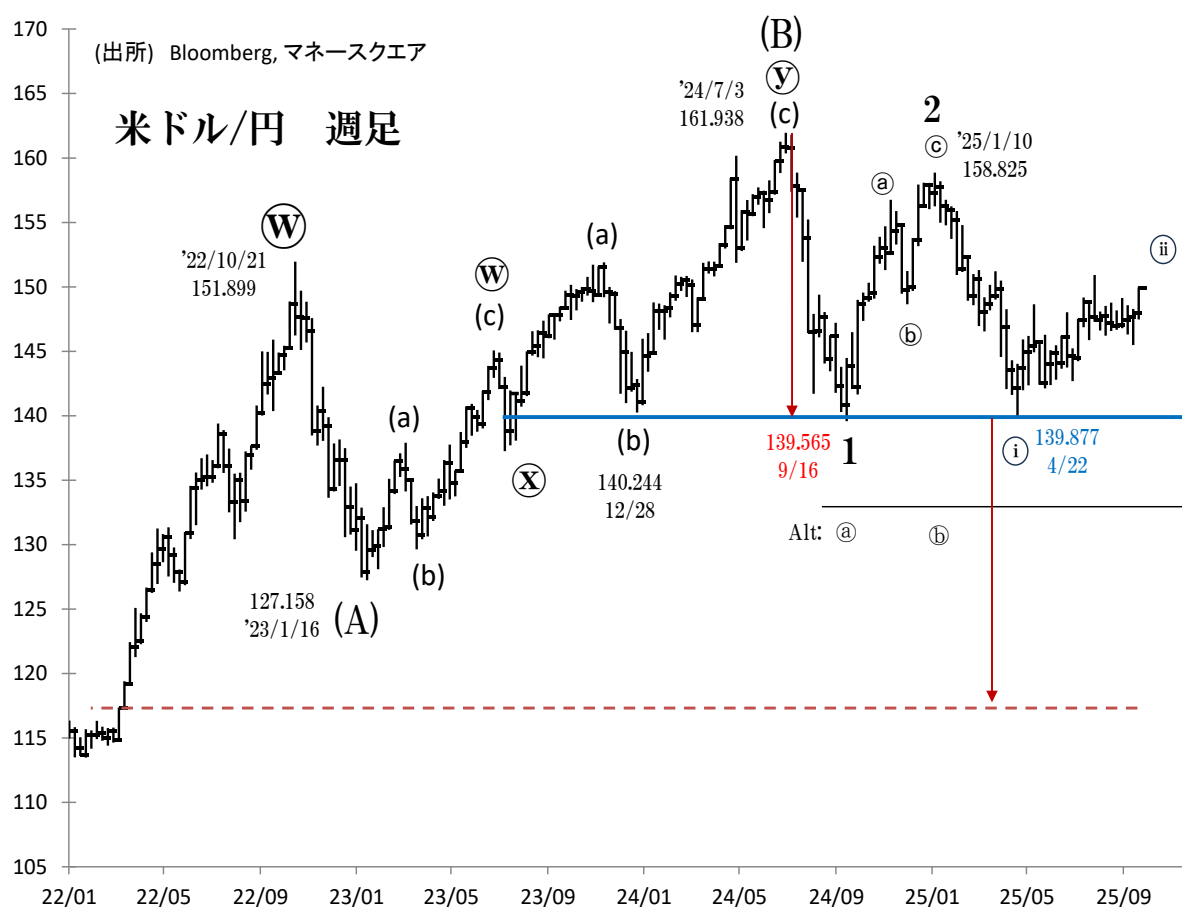


## 【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1ドル=125 円～120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

年内については、ドル/円はじり高の展開が想定されます。

しかし、おそらく 26 年前半には 139 円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。



#### 【週足 エリオット波動分析】

今年1月からのドル安・円高は、第3波とカウントされます。これによれば、先々1ドル＝120円試しが視野に入ります。第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625円]という目標値が得られます。

一方139.877円(4/22)からのマル ii 波による上昇は継続しており、年内1ドル＝151円～154円を試す可能性が高い、とみています。

中長期のドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル＝120円割れの可能性もみえています。



### 【日足 エリオット波動分析】

足元でドル/円は、200 日 MA と注目節目の 149.100 円、これらを一気に抜き去りました。

この動きは 150.869 円(8/1)からの(x)波による円高が 145.473 円(9/17)を以て終了したこと、4 月からのマル ii 波完成に向けたドル高・円安のスタートを示唆するものです。

マル ii 波全体のパターンは、「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」とみています。9 月 17 日以来のドル/円上昇は(z)波です。

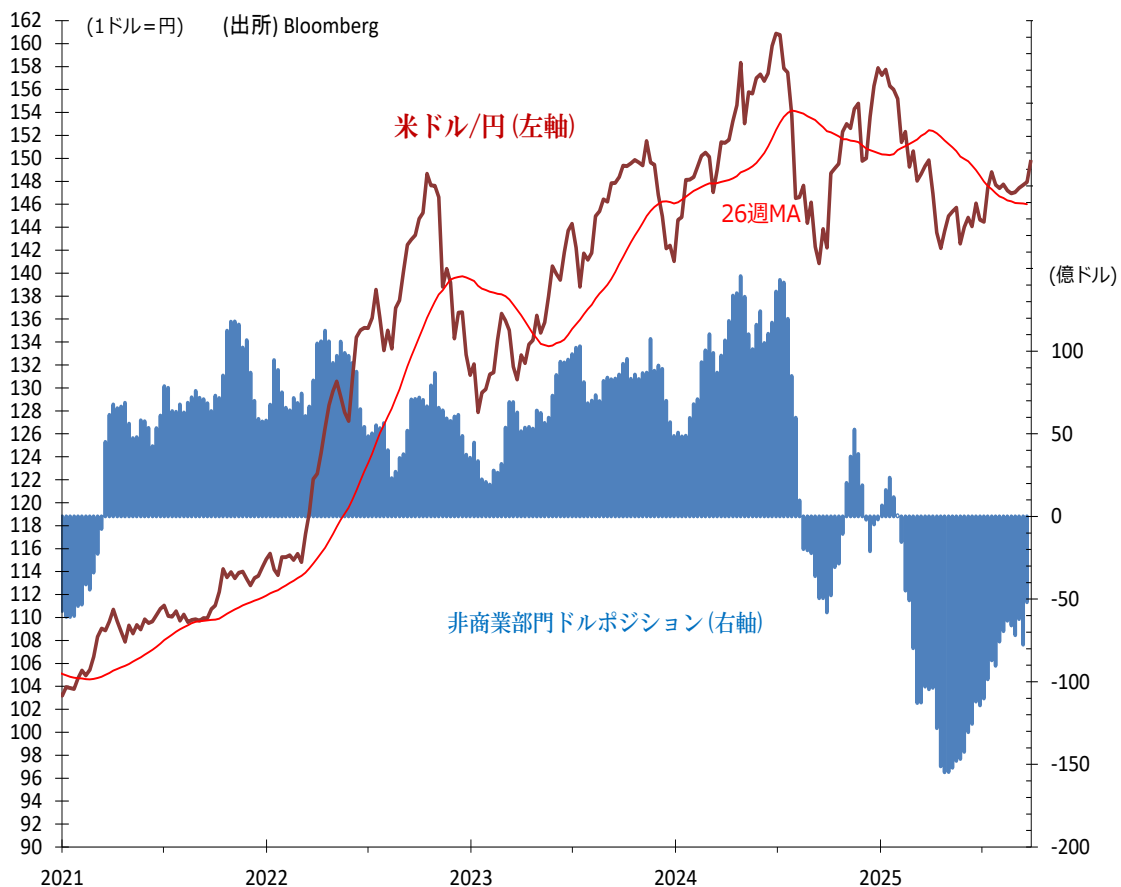
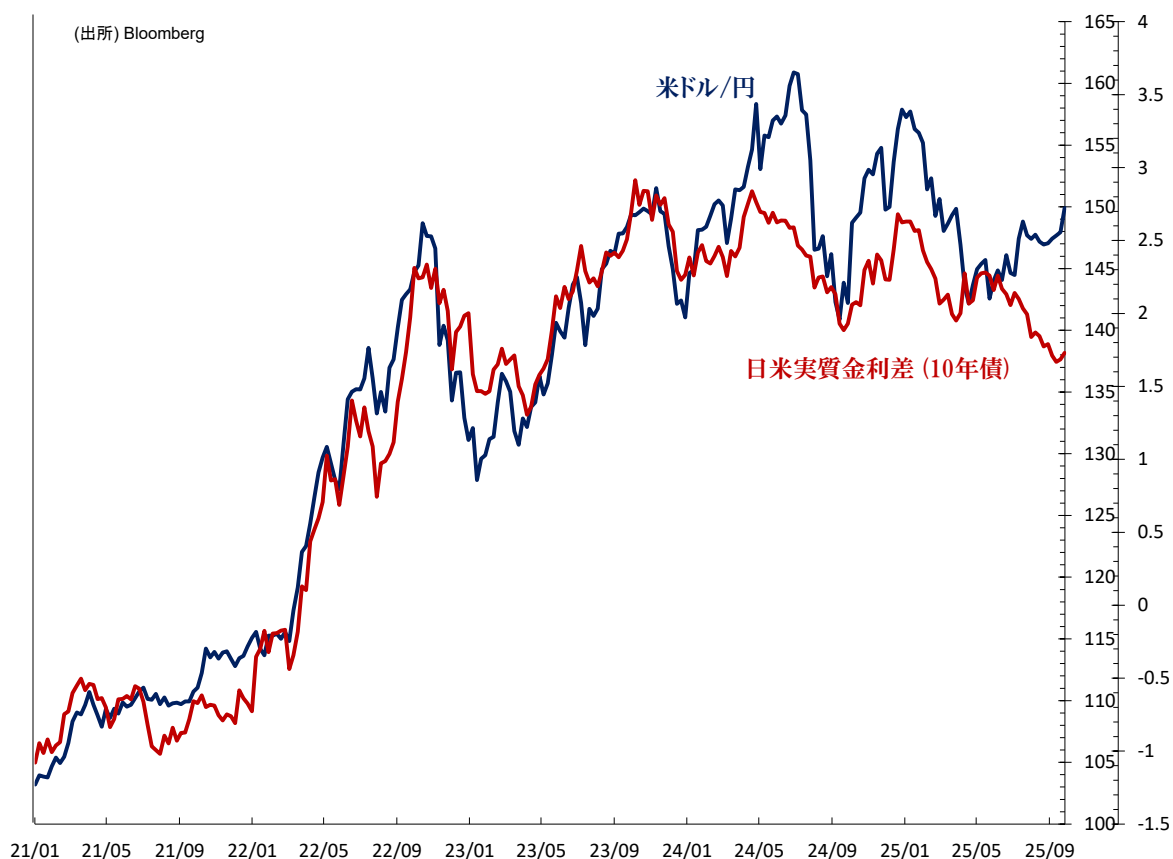
マル ii 波の上値目標は[151.586 円](1 月からの円高の 61.8%戻り水準)や[154.353 円](同 76.4%戻り)などです。

### 金利差からのドル/円推計値

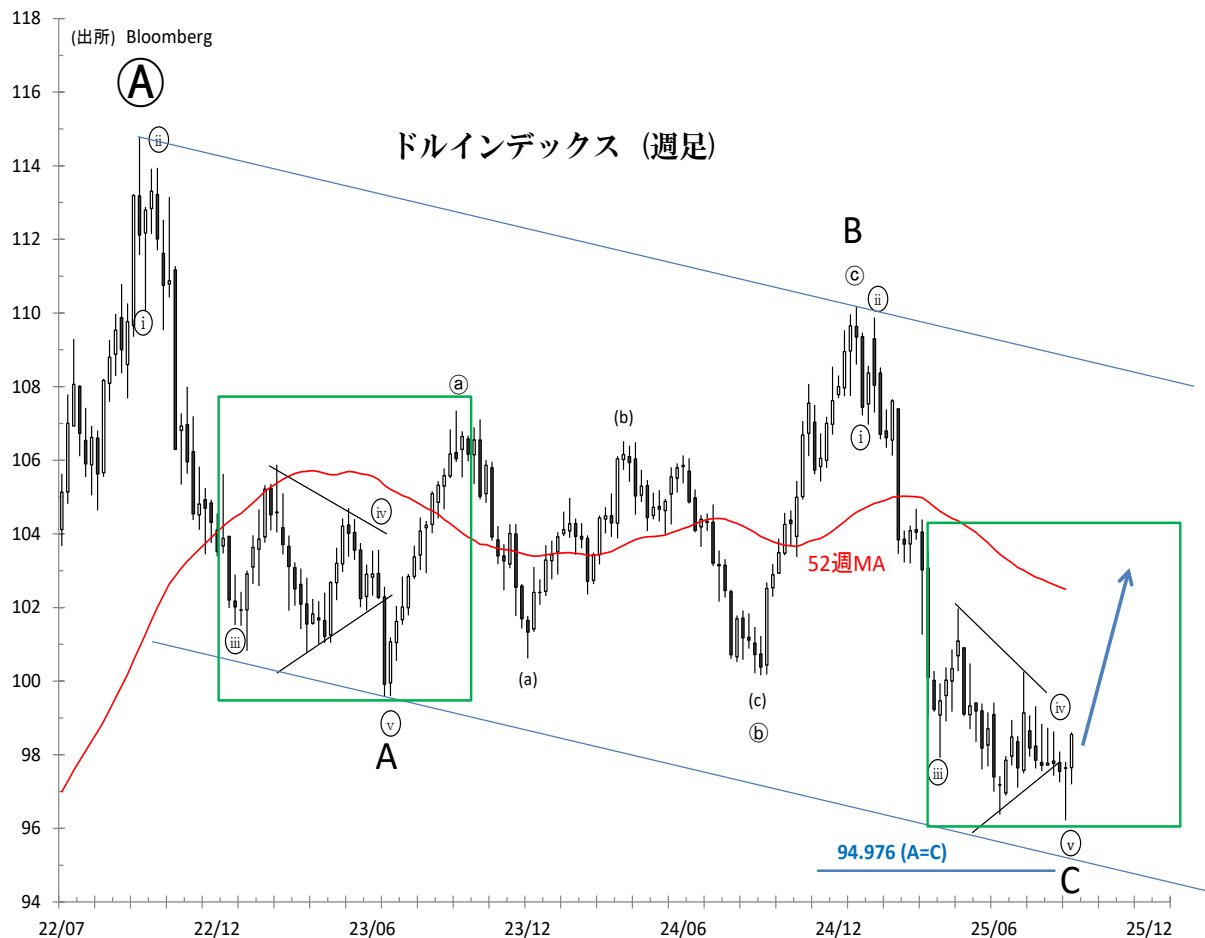
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[140.551 円]です。

### 投機筋の円買い持ち高が 7 カ月ぶり低水準に(2025 年 9 月 16 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高が前週の 77.56 億ドルから 51.9 億ドルへ縮小。2025 年 2 月以来の低水準となりました。



## ドルインデックス (ドル指数)



### 【エリオット波動分析】

週足チャートに口で示した箇所、A波の最終局面(マル iv 波-マル v 波)と、C波の最終局面は、互いに似ているようにみえます。このフラクタル性に着目すると、A波完了後の持続的なドル高(当時は23年7月中旬～10月上旬まで12週間のドル高でした)が、今回も繰り返されるでしょう。

96.218(9/17)を以て、22年高値からのジグザグ(A-B-C)は終わった可能性があります。

そうであれば、当面はC波のドル安に対する38.2%戻り水準[101.550]を目指すでしょう。

なおA波終了後にみられた持続的なドル高(㊟波)は、A波のちょうど半分を戻しました。今回も同様なら、数カ月後にはC波の半値戻り水準[103.197]を目指すことでしょう。

長期的にはドル安(㊟波)は継続するとみられ、ドル安基調は2026年に一段と強まるでしょう。

筆者は、ドル安㊟波は短くとも2028年頃まで続くと考えています。





※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---